



お茶の水女子大学

ヒューマンライフイノベーション研究所

Institute for Human Life Innovation

公開シンポジウム
一般の方も歓迎致します

病気やストレスに負けない “からだ”をつくるための 健康イノベーション

2016年12月13日(火)15:30-18:10
お茶の水女子大学共通講義棟2号館201室



入場無料

事前申込
不要

-Program-

司会：ヒューマンライフイノベーション研究所長 小林 哲幸

15:30 開会あいさつ
ヒューマンライフイノベーション開発研究機構長・理事・副学長 小川 温子

15:35-16:30 【特別講演】 健やかな次世代を育むために
—DOHaDの視点から—
早稲田大学理工学術院理工学研究所 教授 福岡 秀興



16:30-16:40 休憩

16:40-17:10 細胞外マトリックスが担う“からだ”の健康
お茶の水女子大学 准教授 宮本 泰則



17:10-17:40 必須脂肪酸欠乏による代謝変化と病態
お茶の水女子大学 講師 市 育代



17:40-18:10 腸管粘膜の機能性と糖鎖
お茶の水女子大学 教授 相川 京子



18:10 閉会あいさつ
ヒューマンライフイノベーション研究所 食物栄養科学部門長 藤原 葉子

会場へのアクセス

- ◎東京メトロ丸の内線 「茗荷谷」駅より徒歩7分
- ◎東京メトロ有楽町線 「護国寺」駅より徒歩8分
- ◎都営バス 「大塚二丁目」停留所下車徒歩1分

【主催】お茶の水女子大学 ヒューマンライフイノベーション研究所
 【お問い合わせ先】ヒューマンライフイノベーション研究所事務局
 〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
 E-mail : office-ihli@cc.ocha.ac.jp
 website : <http://www-w.cf.ocha.ac.jp/ihli/>



2016年12月13日(火)15:30-18:10

お茶の水女子大学共通講義棟2号館201室

講演概要

【特別講演】 健やかな次世代を育むために—DOHaDの視点から—

早稲田大学 理工学術院理工学研究所 教授 福岡 秀興

小さく生まれると生活習慣病を含めた成人病〔代謝循環器疾患、精神発達異常、骨粗鬆症等〕の発症リスクが高いというDOHaD (Developmental Origins of Health and Disease) 説が注目されている。すなわち「受精・胎芽期・胎児・乳幼児期という人生早期 (developmental stage) に、望ましくない栄養・ストレス・環境ホルモン等に曝露されるとエピジェネティック変化が起こる。それに望ましくない生活習慣を経験していくとやがて成人病が発症していく」と考えられている。日本では低出生体重児(出生体重2,500g未満児)の割合は、昭和20年代後半より高く(9.6%:2014)、成人病の更なる多発が危惧されている。しかしこれらハイリスク児への早期教育介入で、リスクは下げ得る可能性も明らかとなっており、周生期の栄養やストレス軽減の重要性を広く発信し、これら教育研究を推進する重要性が日本では特に高い。

細胞外マトリックスが担う“からだ”の健康

お茶の水女子大学 准教授 宮本 泰則

我々の“からだ”は、細胞から構成されていると言われるが、実は細胞だけでなく細胞以外の存在により“からだ”が作り上げられている。それが細胞外マトリックスと呼ばれている。よく知られた細胞外マトリックスには、コラーゲンとヒアルロン酸がある。これらは、“からだ”に“弾力”や“うるおい”を与えるだけでなく、“からだ”の健康維持や乳児の“からだ”の成長にもかかわっている。乳児期での小脳の健全な育成について細胞外マトリックスの一つであるビトロネクチンに我々は着目している。このビトロネクチンが、どのように小脳の育成に関わっているかについて我々の研究成果について報告する。さらに、健康を害する出血を伴う脳の損傷修復に対するビトロネクチンの役割についても紹介する。

必須脂肪酸欠乏による代謝変化と病態

お茶の水女子大学 講師 市 育代

栄養状態の不良は様々な疾患の憎悪因子であり、栄養状態の改善はわが国において重要な課題である。栄養問題は多様化・個別化しているが、栄養状態の二極化にあるわが国において、栄養の過剰と欠乏の両方に対するケアが必要である。食の欧米化に伴い、栄養の摂取状況は変化してきているが、その中で脂質の摂取は量だけでなく、質的にも大きく変化してきた。脂肪の主要な構成成分である脂肪酸には、必須脂肪酸という食事で摂らなければならない脂肪酸がある。このような脂肪酸が欠乏すると、ヒトでは免疫系の異常や成長障害などがみられることが知られている。今回、必須脂肪酸欠乏によって引き起こされる代謝変化とアレルギー病態との関係について、我々の研究も含めて紹介する。

腸管粘膜の機能性と糖鎖

お茶の水女子大学 教授 相川 京子

ヒトの身体は1本の管状の構造をしており、口腔から始まる肛門までの「管」は身体の内側を通っているものの外界に面しており、その境界は「粘膜」といわれる組織で覆われている。粘膜では、食物として取り入れた栄養素や水分の吸収を行うとともに、細菌やウイルス感染を防ぐためのしくみが発達している。腸管粘膜は、表層にはムチン(糖タンパク質の一種)、イムノグロブリンAなどが含まれた粘液でできた層があり、その下にはそれらを分泌する上皮細胞層がある。上皮細胞層を構成する4種類の細胞のダイナミックな増殖と分化が腸管機能を支えており、その破綻は癌や炎症性疾患に関連がある。

本講演では、腸管粘膜の機能性維持に関するしくみについて糖鎖を切り口として解説するとともに、上皮細胞の形成維持にかかわるレクチン(糖鎖結合タンパク質)に関する私たちの研究を紹介する。